

愛知淑徳大学
平成26年度 入試結果

平成26年度入試の
総志願者数は、
1万4416人

大学「冬の時代」に突入した今年の入試で、本学の総志願者数も1万4416人と、志願者数がピークに達した昨年と比べると11.5%減となりました。しかし、AO入試Ⅰ・Ⅱ、公募制推薦入試、一般入試の各々において減らした一方で、センター利用入試の総志願者数は2059人(昨年1698人)と、昨年比約28%の増加となりました。

入学手続き状況は、前年同様に良好で、想定以上に高い結果を示した学部・学科が多く見受けられました。学科毎の入学定員配分の見直しなど、この数年の軌道修正を踏まえ、前半入試(AO、公募制、指定校制)と後半入試(一般、センター利用)の入学者割合は、前半51.3%、後半48.7%となり、徐々に一般入試・センター利用入試での入学割合が増加し、均衡するようになりました。

インターネット出願については、他大学に先駆け2007年度より一般入試とセンター利用入試で導入してきましたが、今年は利用者が87.4%まで増加し、ネット出願が受験生の間に定着した感が

一般入試センタープラス方式

(本学独自試験1教科(科目)+大学入試センター試験2教科(科目)入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	8	176	108	1.6
	英文学科	8	191	109	1.8
	教育学科	8	370	64	5.8
人間情報学部	人間情報学科	16	248	187	1.3
心理学部	心理学科	15	349	158	2.2
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	24	418	328	1.3
健康医療科学部	医療貢献学科	2	62	25	2.5
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	65	23	2.8
	スポーツ・健康医科学科	8	273	82	3.3
福祉貢献学部	福祉貢献学科	4	109	39	2.8
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	3	175	20	8.8
交流文化学部	交流文化学科	28	492	330	1.5
ビジネス学部	ビジネス学科	18	251	225	1.1

一般入試A方式 (3教科入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	32	295	292	153	1.9
	英文学科	32	271	268	140	1.9
	教育学科	32	458	452	146	3.1
人間情報学部	人間情報学科	50	264	262	182	1.4
心理学部	心理学科	48	456	451	209	2.2
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	75	413	410	279	1.5
健康医療科学部	医療貢献学科	11	69	68	32	2.1
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	10	64	62	21	3.0
	スポーツ・健康医科学科	30	261	260	89	2.9
福祉貢献学部	福祉貢献学科	16	145	145	61	2.4
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	14	250	249	45	5.5
交流文化学部	交流文化学科	85	641	632	362	1.7
ビジネス学部	ビジネス学科	56	326	323	206	1.6

一般入試C方式 (1教科入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	4	67	66	10	6.6
	英文学科	4	96	93	31	3.0
	教育学科	4	126	121	7	17.3
人間情報学部	人間情報学科	9	163	153	103	1.5
心理学部	心理学科	8	121	115	48	2.4
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	14	143	132	14	9.4
健康医療科学部	医療貢献学科	2	20	17	8	2.1
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	25	23	2	11.5
	スポーツ・健康医科学科	5	82	77	7	11.0
福祉貢献学部	福祉貢献学科	3	34	34	24	1.4
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	78	76	3	25.3
交流文化学部	交流文化学科	15	164	152	40	3.8
ビジネス学部	ビジネス学科	10	223	194	81	2.4

一般入試B方式 (2教科入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	15	111	106	41	2.6
	英文学科	15	106	104	50	2.1
	教育学科	15	183	182	54	3.4
人間情報学部	人間情報学科	20	122	117	76	1.5
心理学部	心理学科	20	202	200	75	2.7
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	30	301	297	176	1.7
健康医療科学部	医療貢献学科	4	54	54	23	2.3
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	4	51	49	22	2.2
	スポーツ・健康医科学科	14	167	162	55	2.9
福祉貢献学部	福祉貢献学科	7	58	58	20	2.9
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	5	89	89	10	8.9
交流文化学部	交流文化学科	36	245	242	116	2.1
ビジネス学部	ビジネス学科	23	123	123	67	1.8

※倍率 = 受験者数 / 合格者数

※一般入試センタープラス方式、センター試験利用入試、アドミッションズ オフィス入試Iは、志願者数=受験者数





あります。
18歳人口が減り続ける厳しい状況の中、法人化された国公立や私立のいわゆる「上位校」が次々と定員増を図り、学生獲得に本腰を入れています。そのおおりは、確実に他の大学に波及し始めており、実績のある伝統校であっても安閑としていられなくなりました。大学全入時代の今日では、大学が学生を選ぶというより、学生が大学を選ぶ時代になりました。本学も、質の高い教育を提供できる大学であることを自信を持ってアピールし、引き続き優れた学生の確保に邁進しなければなりません。

公募制推薦入試(基礎学力重視型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	12	64	64	61	1.0
	英文学科	12	69	68	38	1.8
	教育学科	12	83	82	40	2.1
人間情報学部	人間情報学科	34	54	50	49	1.0
心理学部	心理学科	27	132	129	70	1.8
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	45	161	159	136	1.2
健康医療科学部	医療貢献学科	5	27	27	7	3.9
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	7	49	49	20	2.5
	スポーツ・健康医科学科	20	98	98	50	2.0
福祉貢献学部	福祉貢献学科	14	42	42	39	1.1
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	8	80	80	12	6.7
交流文化学部	交流文化学科	50	165	163	124	1.3
ビジネス学部	ビジネス学科	34	94	94	92	1.0

センター試験利用入試I期(3教科(科目)型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	5	58	28	2.1
	英文学科	5	87	52	1.7
	教育学科	5	109	58	1.9
人間情報学部	人間情報学科	10	93	70	1.3
心理学部	心理学科	8	144	66	2.2
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	15	163	76	2.1
健康医療科学部	医療貢献学科	2	27	8	3.4
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	16	6	2.7
	スポーツ・健康医科学科	4	70	45	1.6
福祉貢献学部	福祉貢献学科	3	47	19	2.5
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	3	51	18	2.8
交流文化学部	交流文化学科	17	223	134	1.7
ビジネス学部	ビジネス学科	12	118	59	2.0

アドミッションズ オフィス入試I

学部	学科(専攻)	定員	志願者	第1次選考合格者	第2次選考受験者	第2次選考合格者	倍率
文学部	国文学科	若干名	1	1	1	1	1.0
	英文学科	若干名	1	0	0	0	
	教育学科	若干名	4	4	4	2	2.0
人間情報学部	人間情報学科	若干名	7	6	6	6	1.2
心理学部	心理学科	若干名	5	3	3	2	2.5
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	若干名	5	5	5	5	1.0
健康医療科学部	医療貢献学科	若干名	3	2	2	1	3.0
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	2	2	1	2.0	
	スポーツ・健康医科学科	若干名	10	7	7	3	3.3
福祉貢献学部	福祉貢献学科	若干名	2	1	1	1	2.0
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	若干名	5	5	4	1	5.0
交流文化学部	交流文化学科	若干名	12	12	9	7	1.7
ビジネス学部	ビジネス学科	若干名	9	9	7	6	1.5

センター試験利用入試I期(4教科(科目)型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	4	31	21	1.5
	英文学科	4	38	22	1.7
	教育学科	4	79	45	1.8
人間情報学部	人間情報学科	7	25	19	1.3
心理学部	心理学科	6	53	33	1.6
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	10	51	30	1.7
健康医療科学部	医療貢献学科	2	7	4	1.8
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	7	2	3.5
	スポーツ・健康医科学科	4	27	13	2.1
福祉貢献学部	福祉貢献学科	2	17	12	1.4
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	29	18	1.6
交流文化学部	交流文化学科	10	85	66	1.3
ビジネス学部	ビジネス学科	9	47	27	1.7

アドミッションズ オフィス入試II

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	8	11	11	8	1.4
	英文学科	8	7	6	6	1.0
	教育学科	8	20	20	8	2.5
人間情報学部	人間情報学科	28	28	27	26	1.0
心理学部	心理学科	24	55	54	24	2.3
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	40	77	76	44	1.7
健康医療科学部	医療貢献学科	8	24	24	7	3.4
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	7	18	18	6	3.0
	スポーツ・健康医科学科	14	36	34	12	2.8
福祉貢献学部	福祉貢献学科	12	15	15	13	1.2
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	6	32	32	5	6.4
交流文化学部	交流文化学科	48	74	73	50	1.5
ビジネス学部	ビジネス学科	32	33	30	29	1.0

センター試験利用入試II期(2教科(科目)型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	2	11	5	2.2
	英文学科	2	26	8	3.3
	教育学科	2	30	4	7.5
人間情報学部	人間情報学科	6	36	19	1.9
心理学部	心理学科	6	31	12	2.6
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	8	39	12	3.3
健康医療科学部	医療貢献学科	2	7	3	2.3
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	10	2	5.0
	スポーツ・健康医科学科	3	22	5	4.4
福祉貢献学部	福祉貢献学科	2	18	14	1.3
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	30	3	10.0
交流文化学部	交流文化学科	8	48	16	3.0
ビジネス学部	ビジネス学科	7	49	29	1.7

※アドミッションズ オフィス入試I・IIの募集人員(定員)は合算です。



愛知淑徳中学校
平成26年度 入試結果

志願者数は969人、実質競争倍率は1.7倍
中高一貫校へのさらに高まる期待と関心

入試科目と試験時間・配点

科目	試験時間	配点
国語	50分	100点
算数	50分	100点
社会	あわせて60分	50点
理科		50点

受験者の平均点、最高点・最低点

科目	全受験者	最高点	最低点
国語	62.4(63.1)	96	24
算数	53.4(47.8)	100	8
社会	33.4(32.8)	50	9
理科	24.7(30.6)	46	7
計	173.9(174.4)	265	67

※()内は前年度

合格者の平均点、最高点・最低点

科目	合格者全体	最高点	最低点
国語	68.8	96	42
算数	64.5	100	38
社会	37.2	50	20
理科	28.4	46	15
計	199.0	265	171



公立高校の授業料無償化は若干の制度変更がありました。進学しやすくなったとは言え、15歳という多感な時期での高校受験の存在はやはり大きく重いものがあります。また、特定の公立高校の競争率は依然として高く、中学・高校時代に豊かで充実した時間を過ごしたいと考えれば、受験生にも父母にも中高一貫制度が魅力的であることには変わりありません。また、高校受験によって分断されないカリキュラムの合理性は、その後大学受験を考えるとますます重要になってきていると言えます。

本校では、国数社理の4教科受験、定員は280人という体制も定着し、2月の最初の日曜である2月2日(日)に入学試験を実施しました。他校については、南山中(女子部)が本校の前日の2月1日(土)、金城学院中と愛知中が1月25日(土)、聖霊中が1月26日(日)、椋山女学園中は本校と同じ2月2日(日)、滝中は2月9日(日)と、今年度に入試の本校への志願者は969人、受験者は891人でした。併願校の可否の影響もあって当日の欠席が昨年度を上回りました。合格者は522人となり、実質競争倍率は1.7倍でした。特に国語と社会では受験者平均で6割以上の得点率となり、合格最低点は171点(得点率57.0%)と昨年度をわずかに下回りましたが、例年通り実力伯仲の入試となりました。

その後、繰上げ合格者を24人出し、最終的な入学者は283人となりました。高校入試のない完全中高一貫カリキュラムも完成後3年を経過し、今春には第3期生が卒業しました。高校2年から文型・理型に分かれるカリキュラムもすっかり定着し、生徒たちは充実した学校生活を謳歌しながらも、それぞれの進路に向かって中身の濃い時間を過ごしています。本校の中高一貫教育が一人でも多くの受験生や保護者の理解を得て、来年度はさらに多くの受験生が本校を志望してくれることを期待しています。